

長野赤十字病院  
血液内科 後期研修医  
植松 望武

この度は JALSG Young Investigator ASH Travel Award 2017 に選出していただき、59th ASH Annual Meeting に参加する機会をいただけたことを心から感謝申し上げます。初めての国際学会への参加で不安もありましたが、オンラインアプリケーションで演題のスケジュールを眺めていると、血液学の最先端の研究に触れられるという期待が徐々に高まっていきました。

非常に多くの興味深い演題があり、どれを聞きに行くか大変迷いましたが、自分の過去の症例や疑問に思っていた内容についての education program と oral session を中心に聞いて来ました。個人的に大変興味深かったのは多発性骨髄腫に対する治療についてでした。新規薬剤を含んだ 1stline の治療についての議論が多い中で、ASCT の重要性は未だに揺るがず、その前処置に関しても各国で様々な試みが行われていることに感銘を受けました。また AML の session では、原因遺伝子異常の特定のみならず、それに対する阻害薬による治療の層別化など、新たな治療戦略が展開されているということを実感しました。

私の英語力では oral session での discussion は困難であったため、poster session ではなんとか質問をしようと思ひ、会場に向かいました。見きれないほど多くの演題がありましたが、その中でも特に興味深い演題でいくつか質問をしてみました。様々な国籍の演者の先生がいましたが、どの先生も新米血液内科医の私の質問に優しく答えてくださいました。英語力が足りなく、歯痒い思いもしましたが、とても良い経験となりました。また poster を眺めていると、大学からではなく、市中病院からの報告も多く見受けられました。遺伝子解析など高度な研究も多い中で、小規模でも興味深い研究をしている施設もあり、いつかこの場で自分も発表できたらという思いも湧いてきました。

今回の ASH 参加は、血液学の進歩を肌で感じる事が出来、これからの診療に対するモチベーションを高めることにつながりました。JALSG に参加している施設の一員として、このモチベーションを維持し、血液学の発展に微力ながら尽力していきたいと考えております。最後に、このような機会を頂きました JALSG 関係者の皆様や、多忙にも関わらず快く学会へ送り出して頂いた長野赤十字病院のスタッフの皆様にご感謝申し上げます。